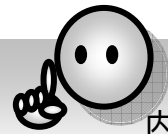


# 教育実践力の習得

## 教育技術の知識と実力



内容説明

### 他人に教えられるよりも、自ら学習することが大切

教育についての知識があるだけでは、教師として求められる力量として不十分です。自分から積極的に問題解決に挑む態度と能力が期待されているのです。このような能力を教育実践力と呼んでおきましょう。教育実践力は他人から教えられるものではなく、自分から積極的に学習しなければ習得できません。他人に教えることが教師の職務であると考えがちですが、それよりも大切なことは、次の表にも示されているような教育実践力を体得するために、自分から積極的に学習することです。この講座ではこのような実践力の基礎となる能力を学習することを目指しています。

教育実践力	達成指向性，積極性，他者理解力，説得力・影響力，チームワーク力，情報収集力，分析的思考力，概念的思考力，自己コントロール，自信，状況認識力，状況適応力，コミュニケーション力，計画力，自己認識力
学習活動	受容する，共感する，観察する，記録する，分析する，調査する，解釈する，総合化する，構想する，予測する，創造する，モデル化する，命題化する，報告する，広報するなど
テーマ	理想的な仮想の学校を構想し，学校を組織として検討して，多様な学習者を迎えたとき学習指導法を考案してみよう。

以上のような教育実践力はどのように体得されるのでしょうか。従来の勉強のように本を読んで理解・記憶することが重要なわけではありません。自分で発想し，自分で開発し，自分でその有効性を実際に示し，他人を説得できる論理を展開し，実際に行動できるような能力です。教育実践力は一般に実力ともいわれているもので，その人の行動を見るだけでは体得できず，どのような状況のときにどのように行動するのかという判断を体験することが大切です。したがってその能力は実践することによってしか体得できません。また，厳しい自己の反省と創造的な工夫によってのみ体得できるものです。

教育を理念の視点から批判することはやさしいことです。誰もが教育の評論をすることができます。それはちょうど誰でもが野球やサッカーのサポーターになれるのと同じです。しかし，プロの野球選手やサッカー選手になるためには厳しいトレーニングが必要です。それと同じようにプロの教師になるためには厳しい修業が求められます。現在の教員免許ではあまりにも基礎的知識に偏っているので，複雑な問題に対処することができず，およそプロとしての職務を行うためには十分ではありません。運転免許状のようなものです。それを取得したからといって運転が上手になるのではなく，実践的に運転しなければ実力が向上しないのと同じです。

## 物事には5つの段階があります。

学校には教育的価値を実現することが期待されています。その価値観は教育する側の理念だけでなく、学習する側に受け入れられるものでなければなりません。「すべきこと」からスタートして、「できたこと」と「できなかったこと」に終わる一連の活動が必要です。このときに「できたこと」から学ぶのはなかなか難しいですが、「できなかったこと」から学ぶことは改善の手がかりが得やすいです。できなかったことの原因を究明することによって再び同じ失敗をしないようにすることができるからです。

すべきこと	教えるべきこと
できそうなこと	教えられそうなこと
やったこと	教えたこと
できたこと	学んだこと
できなかったことと原因究明	学ばなかったことと原因究明

経験を重視するような専門分野では、失敗することがしばしばあり、その失敗から何を学ぶかが重要なのです。航空工学は経験学ですから、飛行機は墜落してはじめて明らかになる原因がまだ多いので、墜落したときはすぐに原因究明委員会が結成されます。造船技術も経験学ですから、船も沈むということを経験して初めて明らかになる原因が存在するのです。どの専門分野でもプロは上記の5つのすべての段階に精通することが求められています。

教育においては、「すべきこと」はよく論じられるのですが、実際に実践して失敗したときに、その失敗したことの原因を究明するという研究方法がまだ十分に確立していません。アクションリサーチという方法では、自分で実施してみて、その結果から原因を究明しながら進めるという方法がとられています。教育での研究発表はそのほとんどが成功した事例になっていますが、そのために失敗したときの原因究明の技術が発達していません。その結果、同じあやまちを自分でも繰り返す、さらにあちらこちらで繰り返しているのが現状です。講座では失敗したことを恐れずに公表し、それを改善するための教育実践力を身につけよう。

われわれが教室で観察できるのは、学習している活動あるいは教えている活動です。しかし教育での失敗の原因を追究するためには、このように外部から観察できる活動だけでは不十分で、それらの活動の背後にある学習者の知識や感情を推測する必要があります。そのためには高度の判断力が大切であり、その判断力は実践を通してのみ体得することができるのです。この講座ではそのような実践はできませんが、自分たちでさまざまな学習活動を経験することによって、高度の能力を体得することを目指した基礎学習として取り組んで下さい。